

会 議 録

会議名	平成 29 年度 第 2 回 丸亀市行政評価委員会
開催日時	平成 29 年 6 月 15 日 (木) 13:25～15:00
開催場所	丸亀市役所 本館 2 階第 3 会議室
出席者	<p>出席委員 赤熊一弘、岩永十紀子、岡本恵子、森茂、佐藤常光</p> <p>欠席委員 吉田世津子、藤川澄子</p> <p>事務局 市長公室長 山田理恵子 (市長公室政策課) 課長 山地幸夫、副課長 富士川貴、担当長 志村芳隆、 主査 宇野大志郎</p>
議 題	<p>1. 評価作業の質問と回答について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	1 名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
山地政策課長	<p>ただ今より第 2 回丸亀市行政評価委員会を開会します。本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p> <p>議事の進行は会長にお願いします。</p>
岡本会長	<p>議事に入ります前に、本日 7 名中 5 名の委員のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>それでは、議事の 1「評価作業の質問と回答について」事務局より説明をお願いします。</p>
政策課 宇野	＜資料に基づき説明＞
岡本会長	<p>例えば、環境安全課の取組みのうち、後期基本計画で定められた施策の展開に、環境アドバイザーに関する項目がありますが、担当課の取組み内容の記載を見ますと、5 年間全く取り組んでいないことが伺えます。このような担当課の総合計画への意識について、総合計画を管理する政策課としてはどのように考えていますか。</p>
山地政策課長	<p>毎年度の進行管理で確認していると思いますが、後期基本計画の 5 年間に全く進んでいないということであれば、次の総合計画策定のなかでどのように考えていくのか検証する必要があります。</p>

岡本会長	<p>総合計画策定の際に、担当課から出てきた取組みのほずです。各担当課が、総合計画の内容を踏まえることは、それぞれの事業を進めていくうえで、一番基本になることではないのでしょうか。</p>
山田市長公室 長	<p>総合計画に掲げた文言のなかで、具体的にどのような取組みを行うのか見えにくいものも確かにございます。</p>
岡本会長	<p>この評価シート自体が、結局成果指標に引っ張られていると感じます。モチベーションには繋がりますが、成果指標にあがっていない、その他の取組み、例えば先ほどの施策の展開や重点推進プロジェクトなどが、調査シートに触れられていないのは、政策課の調査方法に問題があったのかもしれませんが、担当課の意識にも疑問を持ちます。</p>
	<p>次の総合計画を策定するうえで、まちづくりの実現のために、どのように確実に進行管理していくのか、職員にどう意識付けながら事業を進めていくのか十分に考えて欲しいと思います。</p>
佐藤委員	<p>公用自転車の成果指標についても、目標の50%も達成しておらず、職員全体の意識が低いように感じます。</p>
山地政策課長	<p>5年前に設定した段階で、目標値をどこまで持っていくかという点もありますが、達成した場合は上方修正して取組みを進めています。達成状況を確認するなかで成果指標は一つの判断材料として見ておりますが、施策全体の取組みとして見逃していた部分もありますので、どのような進行管理を行っていくか、次の総合計画策定において考えていきたいと思います。</p>
岡本会長	<p>行政改革の取組みでは、時間外勤務の縮減の項目など、担当課の本音が出ている部分が見えます。政策課の業務は全庁に関わるものが多いので、こうした声を細かくピックアップして、担当課との調整、業務改善につなげていくことも大切だと思います。</p> <p>また、行政評価で行っているチェックをどうアクション（改善）につなげるかまでには至っていないと思います。民間企業のPDCAサイクルは、どうですか。</p>
森副会長	<p>目標どおりできていない場合は、管理サイクルを上げていかないといけませんので、チェックは厳しく行っています。</p>
岡本会長	<p>行政の業務もやったら終わりではありませんので、どうすれば改善につながるか、そのシステムをどう構築するかを、政策課が担っていると思います。</p>

山田市長公室 長	次の計画に向けて、現在の成果指標が適切かどうかを見直す必要もあり、担当課から意見が出ている項目もあります。
岡本会長	都市計画の取組みで、中心市街地の人口に関する成果指標などは、下げ幅を抑えるという指標に変えたいとの担当課の意向がありますし、事業ごみの問題についても、企業活動が活発になればごみが増えるのは当然ですので、どういう方向性で考えていくのか検討が必要と思います。
森副会長	あくまで成果指標は努力すれば達成できるものを設定していると思います。我々が評価するのも、指標に対してできているかどうかを見ますので、指標の立て方は重要です。
山地政策課長	総合計画の達成状況を確認するうえで、客観的な数値として、成果指標が基準になる部分があります。行政の取組みには数値に表れにくい部分もありますので、そうした点も含めて、職員が総合計画への意識を持って取り組むよう、周知徹底していきたいと思います。
岡本会長	総合計画策定後は、職員研修として総合計画を扱うことはありますか。
山地政策課長	新規採用職員には研修として行っています。職員への意識付けは、管理職の務めだと考えておりますので、まずは管理職が組織の中で伝えていくことが大切です。
山田市長公室 長	年度当初に部の重点課題に関する市長ヒアリングを実施しておりますが、その取組み事項の根底には、各部課長が総合計画を意識しています。
岩永委員	今後この評価を行うにあたって、知りようのない事業などは、質的な評価は難しい面があります。例えば、青い鳥教室の待機児童がずっと0人である理由について、保護者が見れるようになった、留守番できるようになったとの回答でしたが、実のところは支援員に対する不満があつてやめていくことが多いなど、身近な情報はむしろ私たちの方が得やすかったりします。そうすると待機児童0人は評価に値しないということにもなります。こうした情報を収集できるものは、少しでも改善につながると思って評価できますが、評価全体としては、公平に評価するのが難しく、ムラが出てしまうところにジレンマがあります。
岡本会長	岩永委員に入ってくる情報は、それを活かして評価すればいいと思います。評価はそれぞれの委員の判断で行うことになります。

森副会長	<p>施策の中に成果指標が複数ある場合、それぞれの優先度がわかれば評価しやすい面がありますが、それもそれぞれの委員の判断になるのだと思います。</p>
岡本会長	<p>B評価2つ、C評価1つのようなケースで、この施策で重要なのはC評価だと判断する場合、施策全体の評価がBになるわけではないということですね。</p>
赤熊委員	<p>どの成果指標にウエイトがあるのかがわかればというのは私も感じました。それから、計画期間が5年と長く、その間社会情勢は随分変わっておりますし、5年間を通して細部を評価するのは難しいと思います。また、政策課としては、この評価をどのように活かしていくのでしょうか。</p>
山地政策課長	<p>成果指標の重要度の違いは確かにありますが、あくまで外部の方の目線で評価いただければと考えていますので、成果指標でわかりにくい部分はお尋ねいただければと思います。それから、5年の計画期間ですが、次の総合計画は市長の任期に合わせて4年間にする予定です。また、今回の評価結果は、全庁に周知して、次の総合計画に活かしてまいります。</p>
岡本会長	<p>その他ございますか。それでは、議事の2「その他」で、今後のスケジュールをお願いします。</p> <p><日程調整></p>
岡本会長	<p>それでは、本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>